

2) 調査結果

a) 哺乳類の重要な種

哺乳類の重要な種の確認状況を表 4.1.5-10 に示す。

表 4.1.5-10 哺乳類の重要な種の確認状況

目名	科名	種名	確認方法	確認年度
ネズミ	ネズミ	スミスネズミ	捕獲	平成 12 年度
		カヤネズミ	痕跡	平成 5 年度～13 年度、15 年度
コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	目視確認等	平成 14 年度、15 年度

a-1) スミスネズミ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 1 哺乳類(環境省 2002 年 3 月)」¹⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「県内で希少」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、本州の新潟、福島県以南、九州、四国、隠岐諸島島後に分布する⁷⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

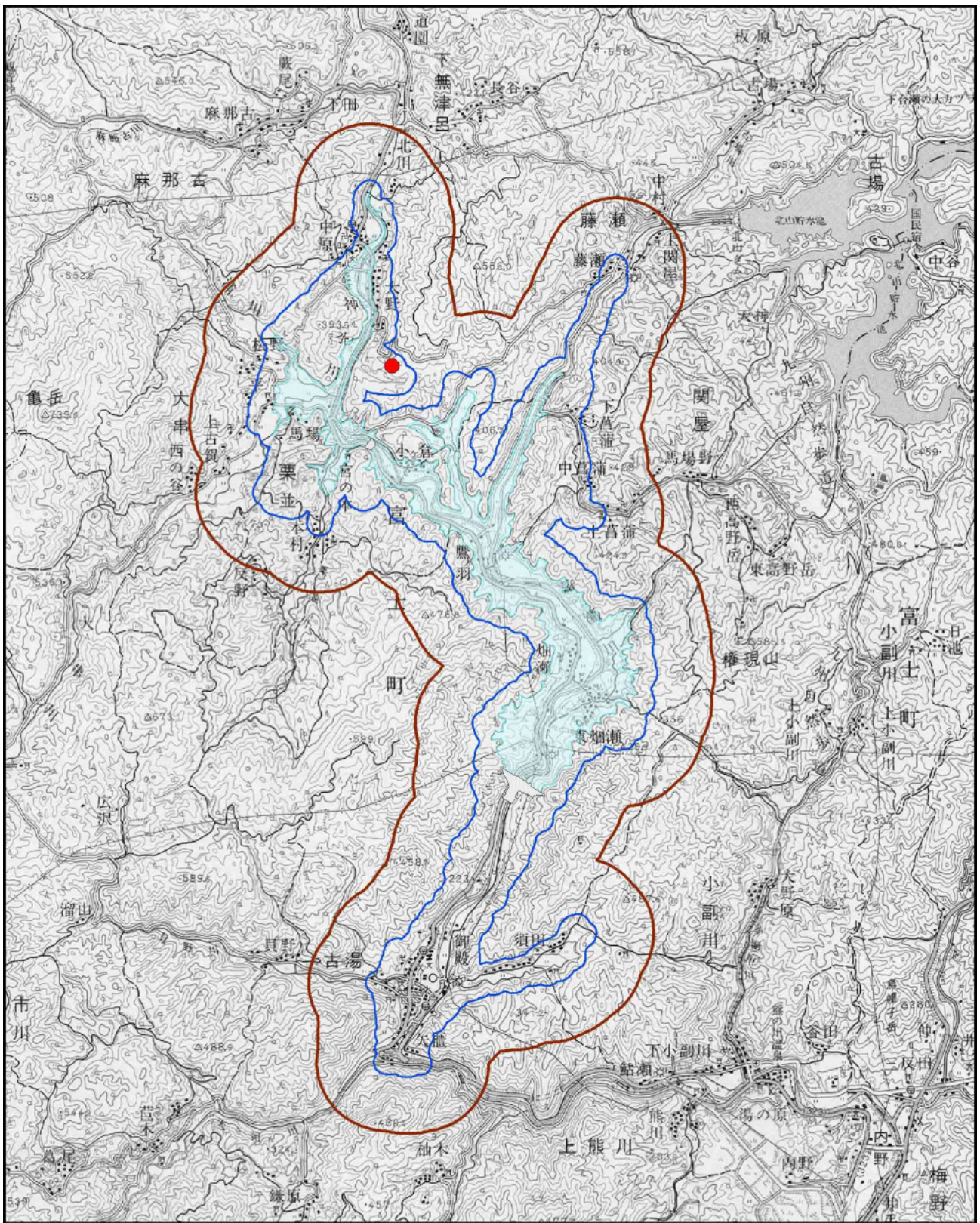
大きな山塊につながった低地から高山帯まで分布する⁸⁾。森林に生息し、植林地、山麓に接した農耕地でも採集される⁸⁾。湿潤な所を好む⁸⁾。ドングリ、クリ、ヤマグワ等の実、落葉広葉樹の葉を食べる⁷⁾。繁殖期は低標高が秋から春、亜高山帯が春と秋の 2 回となる⁷⁾。妊娠期間は 19 日未満と推定⁷⁾され、胎児数は 1 子～4 子(平均 2 子～3 子)⁷⁾である。

iii) 調査結果







調査による確認地点を図 4.1.5-3(1)に示す。

本種は、平成 12 年度の調査において、大野地区の大野集落南 1 地点で生息が確認された。確認地点の環境は、スギ・ヒノキ植林内の比較的草本類の多い急斜面であり、シャーマントラップにより雌 1 個体が捕獲された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-3(1)
スミスネズミ確認地点

a-2) カヤネズミ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州の太平洋側では福島県以南、日本海側では石川県以南、四国、九州、隠岐、淡路島、豊島、因島、対馬、天草諸島下島等⁷⁾に分布する。同一種は旧北区に広く分布⁷⁾する。佐賀県内では多久市、唐津市、佐賀市、武雄市、福富町、小城町、大和町、巖木町、北波多村、富士町⁶⁾における記録がある。

通常、低地の草地、水田、畑、休耕地、沼沢地等のイネ科植物が密生し水気のある所に多い⁸⁾。ムギ、カヤ、ヨシ、ススキ等の茎を登り降りし、それらの種子を食べる⁹⁾。繁殖期は主に春と秋の年 2 回で、稀に夏にも繁殖する⁷⁾。妊娠期間は 17 日～19 日⁷⁾である。胎児数は 2 子～8 子(平均 5.4 子)⁷⁾である。鳥が作るような球形の巣を作り、巣材にはススキ、チガヤ、スゲ類、エノコログサ等が用いられる⁸⁾。巣のある高さは 70cm～110cm で、晩春と初冬に低く、夏から秋は高い⁸⁾。冬季には地表の堆積物や地下に孔道を掘り、畦道でも採集される⁸⁾。

iii) 調査結果

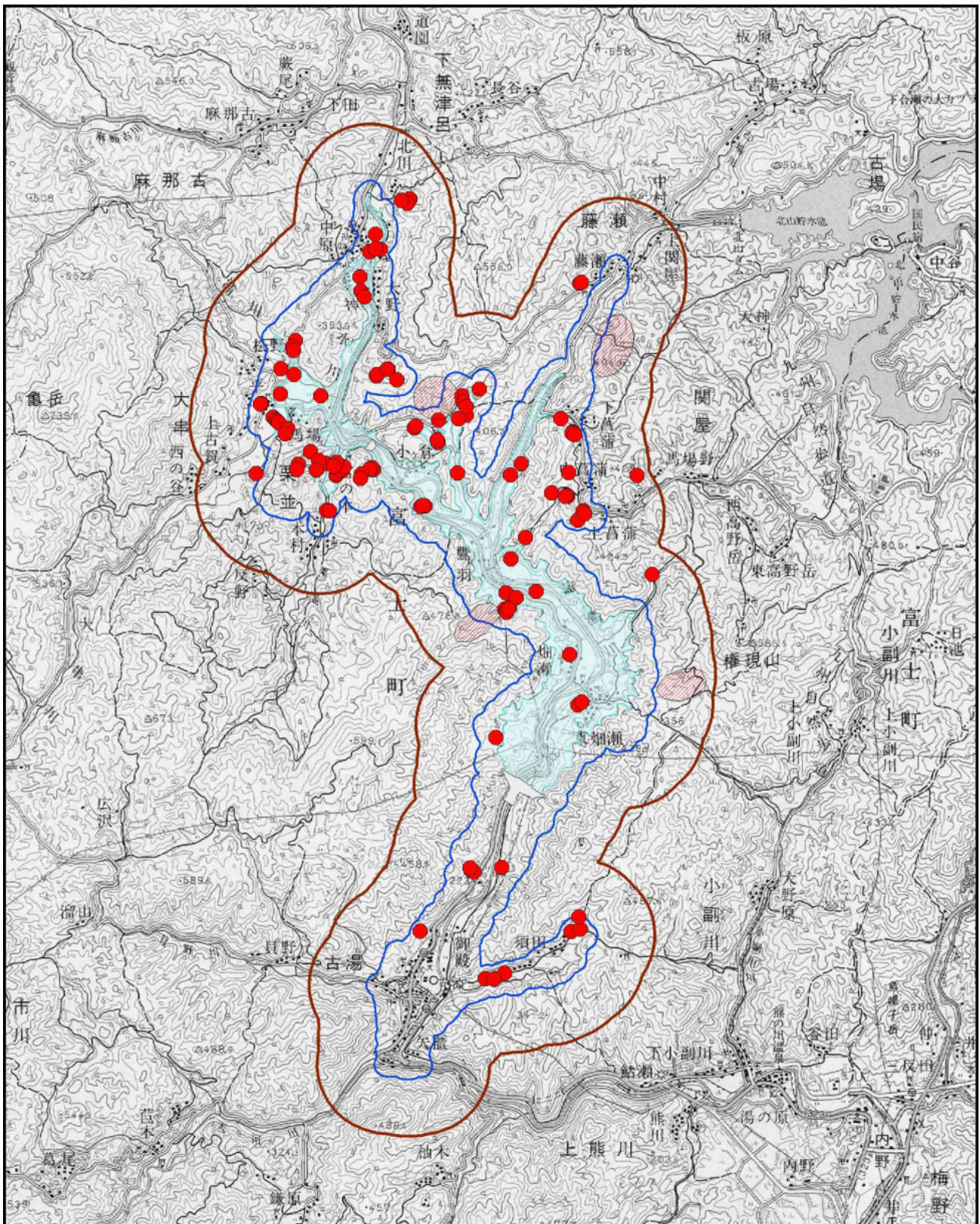
調査による確認地点を図 4.1.5-3(2)に示す。

本種は、平成 8 年度～13 年度の調査において、中原地区 2 地点、下無津呂地区 3 地点、藤瀬地区 2 地点、大串地区 10 地点、大野地区 25 地点、関屋地区 21 地点、栗並地区 24 地点、畑瀬地区 9 地点、古湯地区 4 地点、小副川地区 7 地点、合計 107 地点で生息が確認された。また、平成 11 年度、12 年度及び 15 年度の環境巡視において、中原地区 3 地点、大野地区 9 地点、栗並地区 1 地点、合計 13 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録が

ないが、平成 5 年度及び 6 年度の調査において放棄水田及びその周辺の草地等の広い範囲で、平成 7 年度、13 年度及び 15 年度の環境巡視において確認された記録がある。

確認地点の環境は、休耕地、放棄水田、耕作地脇の草地や河川敷のヨシ原等であり、イネ科草本の群落内部で巣が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、河川敷や耕作地周辺等の草地に生息し、対象事業実施区域及びその周辺の区域の河川敷や耕作地を広範に利用していると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-  } : 確認地点
-  *



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-3(2)
カヤネズミ確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。